

# 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

## 平成 23 年度担当者会の開催報告

平成 23 年 12 月 1 日（木）、香川県小豆郡小豆島町（小豆島ふるさと村）において、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 平成 23 年度担当者会を開催しました。当日は、59 名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案に向けた活動方針について議論が行われました。



### ●開会

開会にあたり、当協議会の幹事長である、宍戸誠二 広島市都市整備局臨海開発課長より、「11 月 18 日に広島県大竹市で開催された「設立 20 周年記念行事」の「首長サミット」で、13 首長が出席し、瀬戸内・海の路の利用振興と防災ネットワーク機能の強化について建設的なご意見を頂いた事、翌日の新聞に大きく記事が掲載された事は大変有意義であったという報告がありました。また、当協議会が、瀬戸内海一円をつなぐ貴重な組織として、産業振興、観光促進の重要な原動力となるべく活発なご発言を頂きたい」との開会挨拶をいただきました。



次に、開催地を代表して、塩田幸雄 小豆島町長より、「昨年度開催された「瀬戸内国際芸術祭」も転機となり、瀬戸内海が再び脚光を浴びていると感じており、来年の大河ドラマ「平清盛」や再来年の「瀬戸内国際芸術祭」等で瀬戸内海が、横軸・縦軸でつながれることにより活気を取り戻すと考えている。皆さんの活動を大いに期待しており、瀬戸内海の発展に頑張ってもらいたい」との開会挨拶をいただきました。

続いて、事務局長である中国地方整備局港湾空港部工藤健一沿岸域管理官から、「日本は、海を中心に発展してきており、海岸線延長では世界第 3 位、排他的経済水域では世界第 6 位になるということで海のポテンシャルが表れていると考えている。一方、今年 3 月に発生した東日本大震災を踏まえ、地域のネットワークの強化を進めていくことの重要性が高まっていると考えており、担当者会において、多くの意見交換をして、ネットワークの深化を進めていきたい」との開会挨拶を行いました。



## ●全体会及び分科会

第1部の全体会では、平成23年度の活動として官民連携（海ネットサポーター登録）の取り組みや設立20周年記念行事、会員活動の支援等について報告がありました。また、平成24年度に向けた検討事項として、協議会要綱の改正、防災対策検討委員会（仮称）の新設等についても提案がありました。

引き続き第2部の分科会では、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会の3つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第3部の全体会では、各実行委員会での議論の内容の報告及び平成24年度の担当者会については小松島市で開催予定との報告がありました。

担当者からは活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。なお、各実行委員会での議論の内容は以下のとおりです。

### ■魅力検討委員会

平成23年度の活動として、55団体の「海ネットサポーター」の登録が完了し、現在、HP掲載に向けて作業を進めていることや、「川と瀬戸内海の島々をつなぐ体験クルーズモニターツアー」について報告がありました。また、現在進行中の活動として、ビジター桟橋の予約一元化システムの構築については、現在、広島県で検討を進めており、年内に試行版の完成、平成24年10月に本格運用を目標としている旨の報告がありました。また、運輸局が進めている「平清盛」瀬戸内連携推進会議との連携について検討していることについても報告がありました。各委員からは、「川と瀬戸内海の島々をつなぐ体験クルーズモニターツアー」については旅行事業者に提案し、平成25年度に商品化が出来ればと考えていること、海ネットで後援した「みなと海鮮朝市」（小松島市）を定期的で開催していきたい等の報告がありました。



平成24年度の活動方針としては、「官民連携による瀬戸内海の海の路を通じた地域振興」を踏まえた瀬戸内海の魅力を高める活動を実施することとして、NHK大河ドラマで「平清盛」が放送されることや平成24年度に開かれる「瀬戸内国際芸術祭」開催に向けて、多くのイベントの開催が予想されることから、「海ネットサポーター」等の民間事業者や複数会員の連携による取り組みについて、積極的に連携を行っていくという提案がありました。各委員からの意見としては、海ネットで支援を行っている「中四国・瀬戸内クルージングサミット」（H24年 福山市で開催）について海フェスタと同時期での開催や船上でのサミットについて検討中との報告や、次回の「瀬戸内国際芸術祭」に向け、プレクルーズについて現在検討中という報告がありました。

## ■環境事業委員会

今年度の「リフレッシュ瀬戸内」については、NPO 法人日本ビーチ文化振興協会と協働開催したこともあり、今後も活動に賛同いただける企業や団体と協働していくことや、早い段階でポスターやチラシの作製を行って宣伝活動を開始し、呼び掛けを行うとの意見がありました。活動内容に新鮮味が欠けてきているとの意見もありますが、恒例行事として定着している地域や、長年の活動の成果が出たのかアサリが収穫できるようになった地域もあります。宣伝方法に工夫を加えることで、活動の輪をさらに広げることができるとの意見もありました。



「海健康診断調査」については、蓄積したデータをクリーンアップ全国事務局（JEAN）へ情報発信し、地域の自治体や子供会と連携して活動を行っていきます。

「リフレッシュ瀬戸内」と「海健康診断調査」を今後とも継続していくことで、環境保全啓発につなげていくことが確認されました。

## ■情報発信委員会

今年度の活動として、一般の方にさらに興味を持って頂けるような魅力的なホームページに向けて海ネット情報アップの依頼や、既存ホームページの時点修正等が実施されてきたことが報告されました。さらに今後、海ネットサポーター制度創設に伴う新規ページの作成、PR用チラシの更新、機関誌「海の路」のホームページへのアップ等を行っていくことなどが事務局より説明しました。



その後、討議が行われ、昨年度実施したバナー・リンクの設置について、他の様々な協議会や広告料などの関係もありトップページへの掲載は難しい、現在担当部局においてバナーを設置しているが効果が疑問等の意見がありましたが、引き続き機会がある時に設置の依頼を行っていくことが確認されました。

また、食のブログに関して、市として特定の店の宣伝となるため投稿できない、会員名での投稿ではなく、ハンドルネームを用いた投稿や一般開放の実施など掲載情報拡大に向けた様々な提案がなされ、実施するにあたってはルール作りが必要との意見が出されました。

海ネットサポーターからの情報アップについても、海ネットサポーターからのアップされた情報が港湾管理者の意見と相容れない場合の取扱などしっかりとルール作りが必要との意見が出されました。

## ●エクサカーション

翌日の12月2日（金）は、小豆島にある「マルキン醤油記念館」と「小豆島オリーブ公園」において、現地視察を行いました。「マルキン醤油記念館」では、しょうゆ造りの歴史と製造方法の紹介が、また、「小豆島オリーブ公園」では、小豆島でオリーブが盛んに栽培されるに至った歴史等について説明がありました。



マルキン醤油記念館



小豆島オリーブ公園